

気くばりネット吉島（中区吉島小学校区）

【構成団体】 学区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会、老人クラブ連合会、町内会、地域福祉推進委員

地区の概況

中区吉島地区は、中区の南端に位置しています。吉島地区の北部は戸建住宅やアパートなどが、また南部は運送関係や木材関係を中心に会社が多く、広島南道路の吉島IC開通に伴い、今後大きく発展が期待される地域であると言えます。

気くばりネット吉島について

気くばりネット吉島は、平成27年10月に、地域団体等が地域住民を見守り、支え合うために形成した準備委員会を立ち上げ、平成28年4月に見守り対象者及び見守り協力員（気くばりさん）の登録を開始しました。現在は見守り登録者と気くばりさんの1対1による見守り活動を基本としています。

サロンの世話人や民生委員、町内会長から地域包括支援センターに「見守りを希望している方がいるので話をしてほしい。」といった依頼が入り、そうした場合には地域包括支援センターの職員が直接出向き、気くばりネット吉島の紹介をしています。

運営委員会は3ヶ月に1回開催しています。各町内会からは町内会長が出席し、気くばりさんから聞き取った登録者の様子を取りまとめて報告を行っています。また、学区社会福祉協議会の会長を始め、「新しいことをどんどん取り入れていこう。」という柔軟な考えを持った運営委員が多く、地域支え合いコーディネーターを中心に、グループワークや研修会で学んだことを自分たちの取組に活かしていくことで、少しずつ成果につなげることができています。

◇ プロフィール ◇

令和7年3月末現在

中区吉島小学校区

●総人口	5,433人	●準備委員会 立ち上げ時期	平成27年10月
●高齢者人口（※）	1,414人	●登録開始時期	平成28年4月
●高齢化率	26.0%	●見守り登録者	47人
●世帯数	2,885世帯	●見守り協力員	25人

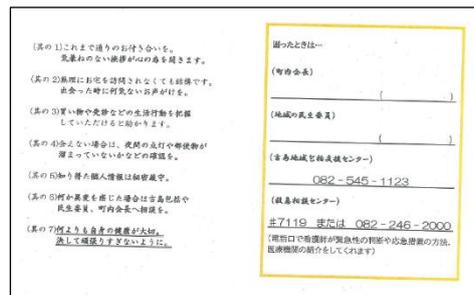
（※）65歳以上

工夫していること

気くばりネット吉島の運営委員会で、「気くばりネット吉島のこれから」についてのグループワークを行った際に、「見守り協力員である『気くばりさん』にお願いしたいことをガイドラインとして明文化して周知することで、改めて見守りに係る啓発をしてはどうか。」という意見が出ました。

そこで作成したのが「気くばりさんの心得」です。運営委員会でガイドラインの中身について意見を出し合い、気くばりさんに日頃の見守り活動で意識してほしいことを7箇条の心得にしています。また、地域包括支援センターや民生委員の連絡先、急な病気やケガで救急車を呼ぶべきか迷ったときに相談できる電話窓口「#7119」など緊急時の相談先についても記載しています。

さらに、運営委員から出た「高齢者が高齢者を見守るケースが増えているため、若い世代の方も巻き込んだ見守り体制づくりができないか。」という意見から派生したのが吉島小学校と連携した取組です。吉島小学校の3年生を対象に授業の1コマを使って事業の周知を行うとともに、児童が「気くばりさんの心得」の表紙にイラストを描いて、それを気くばりさんに配布するようになっています。こうした取組を通じて、まずは気くばりネット吉島の取組を若い世代に知ってもらいたいという運営委員の思いが込められています。



吉島小学校の児童が表紙にイラストを描いた「気くばりさんの心得」と7箇条

活動の成果・今後の展開

吉島地域包括支援センターの川口地域支え合いコーディネーターは「高齢化率の増加に伴い、地域の見守り活動においても高齢者が高齢者を見守るケースが増えており、年月を重ねるにつれて従来通りの見守り体制では厳しくなってきていると感じます。」と話します。そのため、今後も小学校を対象とした取組や認知症サポーター養成講座と連携した取組を通じて、若い世代にも協力を求められる体制づくりを行うことを目標としています。

活動をしている人のコメント

若い世代と高齢者世代をつなぐきっかけになればとの思いから、地域サロン（光2サロン）では毎月第3水曜日に「世代間ふれあい広場」を開催しています。世代を超えた交流を通して、若い世代の方々にも地域の見守りに参加してもらえきっかけになればと願っています。



地域包括支援センターのコメント

若い世代を巻き込んだ地域での見守り体制の構築は、この事業を継続していく上で重要なポイントになると考えています。また、地域サロンに加えて、スーパーやコンビニ、銀行など、地域活動や企業とも連携した見守りの仕組みづくりも、新たな方法として検討すべきだと思います。

